



〈新刊紹介〉ドクトル宇都宮鼎氏著「最新財政學綱要」

内池， 廉吉

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 33(5):795-796

(Issue Date)

1922-11

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053497>



新刊紹介

ドクトル 宇都宮鼎氏著

最新財政學綱要

勸判五七一頁
巖松堂發行

法學博士 小川郷太郎氏著

租 稅

論

勸判七八六頁
内外出版株式會社發行

右は最近我財政學文獻に加へられたる二名著也
宇都宮鼎氏は現存財政學者中の元老にして約十
年前其蘊蓄を傾けて頗る浩瀚なる「財政學」第一
卷及第二卷を著はし進んで其第三卷第四卷を公
にすべき旨を公約せられたるやに記憶するに今
に至るまで之を履行せられざることを如何にも學
徒の爲に遺憾に堪えざる次第なりしに今回第一
卷及第二卷の内容たる經費論官業論租稅論に加
ふるに第三卷及第四卷の豫定内容たる公債論及
豫算論を以てし財政學全體に亘り總括的序述を
試みられたるもの即ち前記の最新財政學綱領に
外ならず舊著に於ける周到なる考察と該博なる
引證は當時既に時人を驚嘆せしむるものありし

が爾後に於ける著者の研究及視察の結果は歷々
新著に表はれ一讀見識思想の圓熟健實を想見せ
しむるに足る著者は曰く今や五ヶ年の長きに亘
り前古未曾有の野蠻暴戾を極めたる戰禍に苦み
心身大に異常を呈し一様の病氣に掛りたる歐洲
諸國民に在りては政治家學者に至る迄常經を逸
するの言動も尠からずして我が邦人中には之を
以て世界を支配するの時代思潮なりと爲し有識
者間にも往々にして斯る誤想を抱く者あるは國
の進歩學理の開發に惡影響を及ぼす事鮮少な
ざるものあるべし學者は毅然として斯る狂瀾怒
濤の間に屹立し以て斯學の神聖を擁護すべきも
のどすと(七頁)即ち租稅を説明するに當りて「ワ
グナー」の主張する社會政策的目的を有する租
稅の如きは「是は租稅に非ずして社會政策上よ
りする財産所得の沒收なり」と斷じ(三五頁)所
得稅に就きては「稅率の高きは必ずしも大收入
を擧ぐるの道に非ず」とし(二〇八頁)財産稅に
就ては單に「財産價格を標準として納稅者の負
擔の均衡を保つに足るの課稅を爲すは殆んど不
可能なりとす又容易に隱匿し脫稅し得るの財産
の如き又は價格調査の基礎を缺くの或る種の使
用財産の如きは國民富力の増進につれて益々増

加し是等の財産と比較的容易に財産價格を見出し得るの不動産等との間に於て益々負擔の不均衡を甚大ならしむるものにして只普國式の毒にも藥にもならざる極めて輕微なる課稅主義を嚴守するに於て始めて弊害なきに近からんか(二二八頁)と説く等其論何れも温健にして實際的價值を有すと言ふべく又書中海外の事例等を引照するところ尠からざるも立論の構成は著者の創意に出づるものゝ如く翻譯的臭味少きことは敬服に價すべく且學說の配列其宜きを得卷中に殆んどあらゆる方面の財政事項を網羅したるを以て教科書として適當なりと考ふ。

次に小川博士の「租稅論」は八百七十餘頁の大著なるも之により漸く博士の租稅總論を讀み得るのみ租稅各論其他の部分は全體未發表の有様なれば凡てが完結するときは本邦無二の大著となるや明也本書は租稅の原理に付可也深甚なる研究を遂げたるものと謂ふべく殊に其引證するところの英獨佛伊の諸文獻と理論上に設けられたる精細なる分類等を顧るものは著者の智識の該博と思索の周密に驚かされざるは無かるべし且文章流暢にして讀む者をして卷を掩ふの暇無からしむ蓋し難解の學理を斯くも容易に讀まし

むるもの本著の如きは他に類例なかるべし著者の我財政學上に於ける一大貢獻は所謂政會政策的租稅の必要を高調せるに在り本著も亦租稅を政會政策の用に供する所以に付反覆詳説するも尙足らざるものあり著者の努力に對し敬意を拂はざらんとするも能はざる次第なるが其社會政策の重要手段たる累進稅を説明する結論に於て「此の如く論じ來れば純財政的見地よりする累進稅と社會政策的見地よりする累進稅は結果に於て大體に同じことゝなるのである」と論ぜらるゝは如何にも心元無きこと也我等は社會政策的租稅論は其結果に於て純財政學的見地よりする租稅と異なるものあるを豫期したりし也何はともあれ右の二著は今年の我財政學界を紀念せしむべき充分の價值あるものならん。(内地)